



—今と未来の担い手が育つ仕組みづくり—

Prof. Aya KUBOTA
 D1 Taku NAKANO
 M2 Takane IMAGAWA
 M2 Keisuke OTSURU
 M2 Nobuyuki TAKIZAWA
 M2 Misa LEE
 M1 Kenichi SHIMIZU
 M1 Megumi HAMADA
 Research Associate Yichen GAO

佐原プロジェクトの取り組み

観光地として注目される佐原
 千葉県香取市佐原は「北総の小江戸」と呼ばれ、江戸期に利根川水運とともに商業の町として栄えた。1996年に関東初の重伝建地区に指定された歴史的町並みや佐原の大祭は多くの観光客を集める地域資源となっている。その一方で人口減少や高齢化の進展、中心商業地の疲弊から文化や町並みをどう担っていくか課題となっている。



高校生のまちづくり参画

地方圏では人口減少や若年層の流出が顕著となっているが、佐原もそういった地区の1つである。そこで、本プロジェクトでは、将来的に地域を支える存在である若年層、とりわけ高校生のまちづくりの可能性と課題について考えてきた。現在は佐原高校まちづくりプロジェクト(SMP)という佐原高校の有志チームと共同でまちづくりを行っている。



佐原未来予想図

担い手の絶対数の減少の一方で、価値観やライフスタイルの多様化がコミュニティや文化の持続性に与える影響も大きい。「未来予想図」では、商店や祭り、NPO、市役所など、地域のさまざまな担い手へのインタビューを通じ、佐原の未来像とそれを支える担い手像について調査・分析を行ってきた。



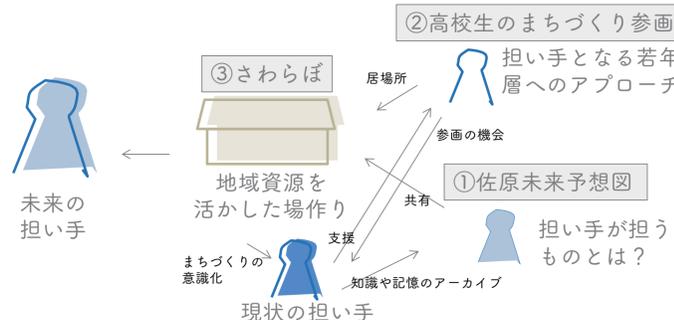
活動の系譜



担い手を育てる仕組みづくり

人口の減少と、歴史的町並みなど培われてきた地域固有の歴史文化の継承の危機

地域固有の文化や日常の暮らしの担い手の消失という進行性リスクへの対応



2015年度の活動のまとめ

①佐原未来予想図 - 担い手が担うものとは? -

「佐原未来ステップ」
 「未来予想図」の調査成果「未来ステップ」の展示発表。多様な担い手へのインタビューや史料の分析から、次世代に佐原らしさを伝えることをテーマに馬場酒造の機関蔵をお借りし、地域への発信と共有の場作りを行った。



⇒歴史的町並みを形成した在郷町佐原の産業ネットワークの読み解きと聞き取りの必要性

②高校生のまちづくり参画 - 担い手の卵の若年層へのアプローチ -

「いまむかし写真展」「まちあるきワークショップ」
 「佐原まちぐるみ小劇場」では、大学生と高校生が連携し、写真の常設展示とまちあるきワークショップを実施。佐原の町並みを介して高校生が地元の人や観光客と関わることで、高校生のまちづくり参画を実践する契機となった。



⇒担い手としての意義、地域への波及効果が見られた。(地縁強化と活動への参画機会提供)

③さわらぼ - 地域資源を活かした担い手を育てる場作り -

旧土屋刃物店の活用
 二代目さわらぼ旧土屋刃物店の活用開始。大掃除やSMPミーティングのほか、地域と世代の垣根を越えた会議からプラットホームとしてのさわらぼ協働運営にむけたつながりが生まれている。



⇒移動を考える面的な空き家活用に向けた移動さわらぼの検証と、地域との協働。

今後の佐原プロジェクト

昨年度から考えてきた、文化と町並みの担い手に着目し、

- ①在郷町佐原の歴史資源・産業構造の調査整理
- ②高校生のまちづくり参画手法と意義の考察(地域との協働)
- ③歴史的市街地における面的な空き店舗活用の理論構築の3つの活動の軸をそれぞれ継続・発展させていく。

